

第2回研究会概要

1. イントロダクション (小林)

英国を中心に海外では、多様なソーシャル・ファイナンス手法が発展し、NPOや社会的企業、ソーシャル・ベンチャーの資金調達に利用されています。イントロダクションでは、これら多様な手法をグラント、デット、エクイティ、ストラクチャード・ファイナンス、その他に分類した上で、個々のファイナンス手法の特徴を概観します。さらに、近年、急速に発展し、ソーシャル・ファイナンスにおいて重要な役割を果たすことが期待されるクラウドファンディングや、一般市民から少額の資金を募集するコミュニティ証券などの手法についても概観します。最後に、マイクロファイナンスや低所得者向け住宅市場などで発展しつつある証券化手法と流通市場の可能性についても分析します。

2. スケールアップのためのファイナンス手法 (小林)

営利企業と異なり、NPOや社会的企業は、利益分配制約があるためエクイティを利用することが出来ません。これは、従来、NPOや社会的企業がスケールアップをする際の大きな制約と考えられてきました。しかし、近年、NPOや社会的企業のスケールアップのための様々なソーシャル・ファイナンス手法が新たに開発されています。今回の報告では、まずNPOや社会的企業のスケールアップ戦略の発展を概観します。その上で、スケールアップのためのソーシャル・ファイナンス手法として、財団や政府による成長資本支援、準株式、NPO債、共同ファンディングなどを取り上げ、その基本的考え方と具体的な事例分析を行います。海外で発展しているこのようなスケールアップのためのファイナンス手法は、今後の日本でのソーシャル・ファイナンス促進に様々な示唆を与えてくれるでしょう。

3. 日本におけるソーシャル・ファイナンス手法 (多賀)

日本でも、ソーシャル・ファイナンスでは、融資(民間金融機関、政府系金融機関、NPOバンク等)、市民ファンド出資、疑似私募債(市民債券)、クラウドファンディングなど、さまざまな手法が用いられています。今回の報告ではまず、これら日本における各種のソーシャル・ファイナンス手法について、その概要と特徴、現況をお話します。

これを踏まえ、今回の報告では、最近の世界の潮流と比較しながら、近時注目されている各種のソーシャル・ファイナンス手法(ツール)と日本の現状を比較したうえで、日本の社会課題を解決する上で、今後導入が必要なソーシャル・ファイナンス手法と、導入のための課題について問題提起したいと思います。